



大阪南ブロック さかい浜支部
(株)オーム設計
廣岡 治男

7月31日、文化審議会世界文化遺産部会にて「百舌鳥・古市古墳群」が、平成29年度のユネスコへの世界文化遺産推薦候補に決定されました。私は旧さかい支部ウォーキング同好会の催行責任者で、これらの古墳をつなぐルートを何度も歩いたことがあります。

10年ほど前に比べると、驚くほど周辺の整備がすすんでいます。しかしながら歩くたびに、経済成長期になぜもう少し秩序のある都市計画に基づいて開発をすすめなかったのだろうとつくづく残念に感じます。特に、大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）の東側や、宅地に囲まれその存在に気付きにくい履中天皇陵古墳近辺を歩く時はその思いを強くします。



また、多くの古墳が宅地開発の中で破壊されましたが、幸運にも保存運動で残った古墳があります。濠のために外界から遮断されて、タヌキのコロニーになっている、いたすけ古墳です。古墳側に朽ちた橋があって、餌をもらえると分かるとその上にタヌキがずらりと並びます。橋は昭和30年頃、土砂の採集と住宅造成のため架けられたものです。



市民運動で古墳は国の史跡に指定され、かろうじて破壊を免れました。市の観光パンフレットに「我が国における文化財保護の歴史を語るうえでも重要な古墳なのです」とあります。

今回の世界文化遺産推薦候補決定は堺市民として嬉しいですが、もう少し時間をかけて整備し、本当に世界の人々に見てもらいたい文化遺産に昇華させてからでも良かったように思います。

空から見ると前方後円墳はまるで鍵穴のような形です。小学校の社会科で初めて習った興味深い話でした。

1940年第一代神武天皇即位紀元2600年の祝典が開かれてから、今年は紀元2677年です。世界中これほど長い君主の歴史はどこにもありません。それだけに世界文化遺産への推薦は嬉しく、決定が待たれます。（編集 西岡）